

高校2年（SGH3期生）コンピテンシー分析

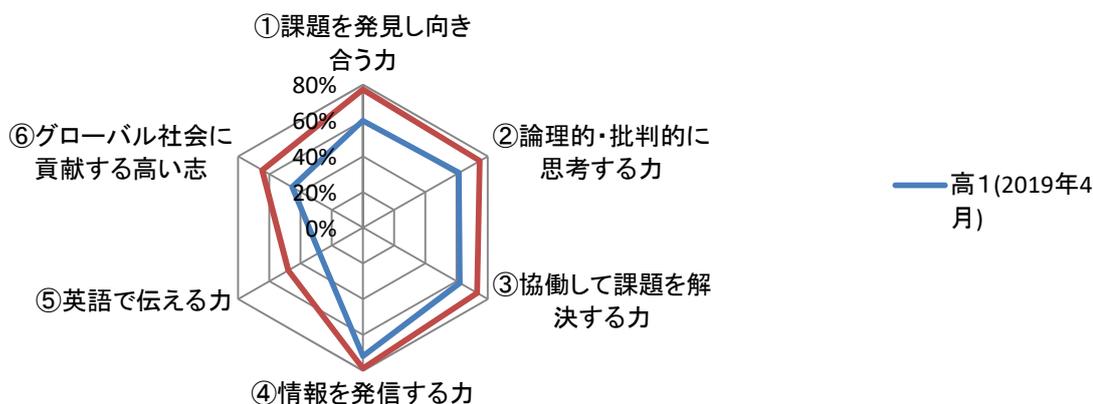
（1）研究開発成果の検証、評価

成果の検証評価には（ア）本校入学時、（イ）高校2年1月の計2回実施した生徒対象アンケートを利用した。このアンケートは、本校が育成したい6つの力に関して39項目の質問があり、その肯定的な回答の割合（非常に当てはまる、かなり当てはまる、まあ当てはまる）の割合をまとめ、生徒らの課題研究及びCTPに関する事業への評価とした。その結果が次の図表1、図表2である。

図表1 2019年度1年（SGH4期生）における6つの力の比較

| 佐高SGHが伸ばしたい6つの力 | 高1 (2019年4月) | 高2 (2020年1月) | 伸び率 |
|------------------|-----------------|-----------------|-----|
| ①課題を発見し向き合う力 | 60% | 77% | 17% |
| ②論理的・批判的に思考する力 | 61% | 75% | 13% |
| ③協働して課題を解決する力 | 62% | 73% | 11% |
| ④情報を発信する力 | 72% | 79% | 7% |
| ⑤英語で伝える力 | 28% | 48% | 20% |
| ⑥グローバル社会に貢献する高い志 | 45% | 65% | 19% |

図表2 2019年度2年（SGH3期生）6つの力肯定的な回答の割合

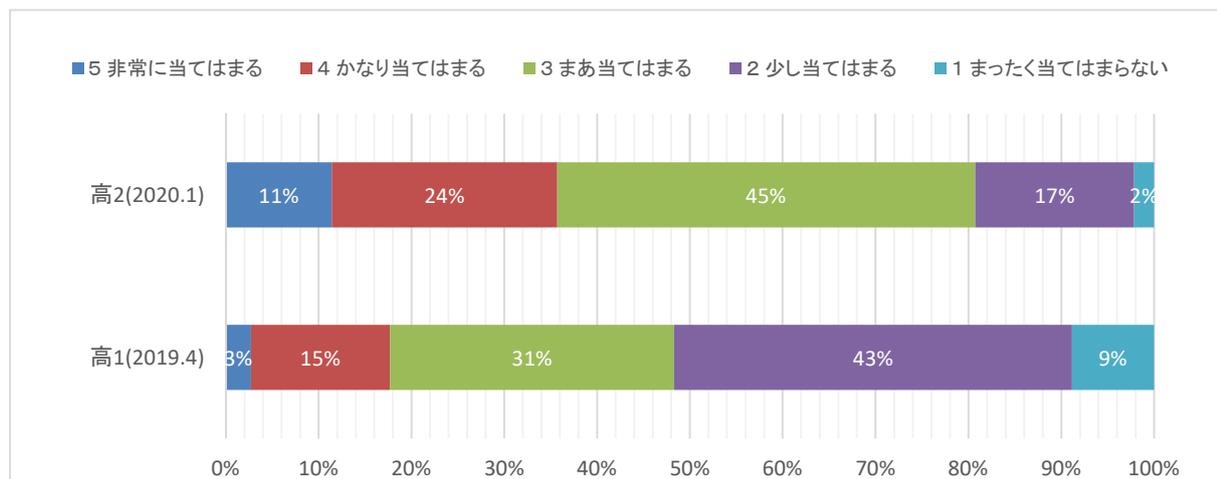


（2）6つの力の評価

1 課題を発見し向き合う力

課題を発見し向き合う力については、本校アンケート質問項目1～4が該当し、そのうち「非常に当てはまる、かなり当てはまる、まあ当てはまる」と肯定的回答したものを平均した。全体において伸び率の上昇が認められる。これは高校1年次で課題研究の方法の基礎を身に付け、そのノウハウを活かして継続して高校2年次において発展した課題研究を生徒自ら行っている成果であると考え。特に、設問4「現状を分析し、課題を明らかにして提案することができる」の伸び率が32%の増加となっている。高校2年次においては、グローバルな視点で研究を行うことが求められており、高校1学年次よりも更に広い視点で物事を視なければならず、自主的な研究を行うことが求められたということもこの伸び率に表れている。

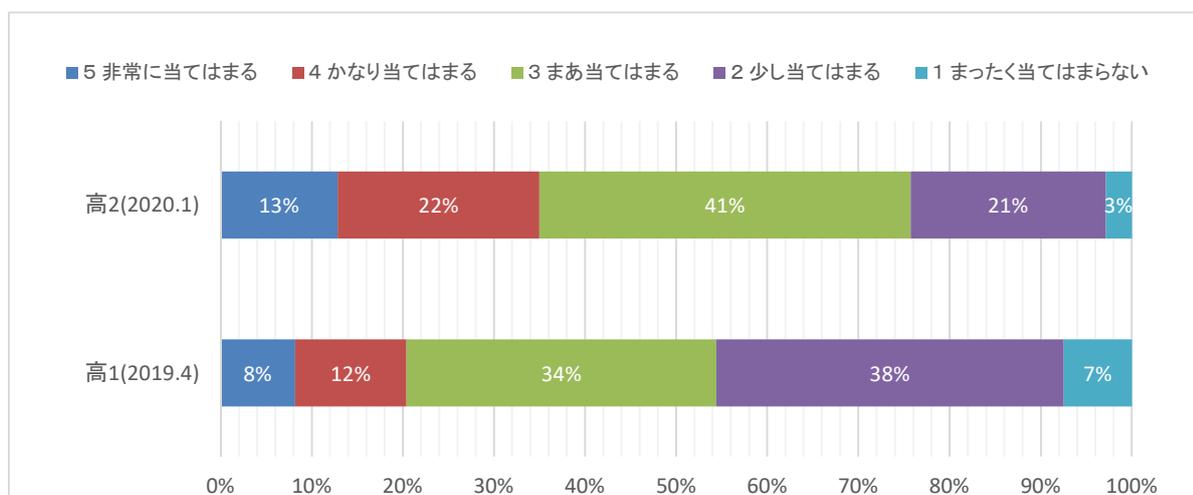
図表3 設問4 現状を分析し、課題を明らかにして提案することができる



2 論理的・批判的に思考する力

論理的・批判的に思考する力に関しては、本校質問項目5～8が該当する。全体的に上昇しており、特に設問8「1つの視点ではなく、様々な視点から考えるのが好きである」の伸び率が21%と大きい。1の「課題を発見し向き合う力」の結果に付随するが、研究の視野が明らかに広がっているという結果であると考えられる。地域密着の研究から、世界に視野を広げて研究を自主的に行っていることが分かる。それは設問5「世界の出来事について、友だちや家族、先生などとよく話し合っている」の伸び率が17%と比較的高いことから窺い知ることができる。

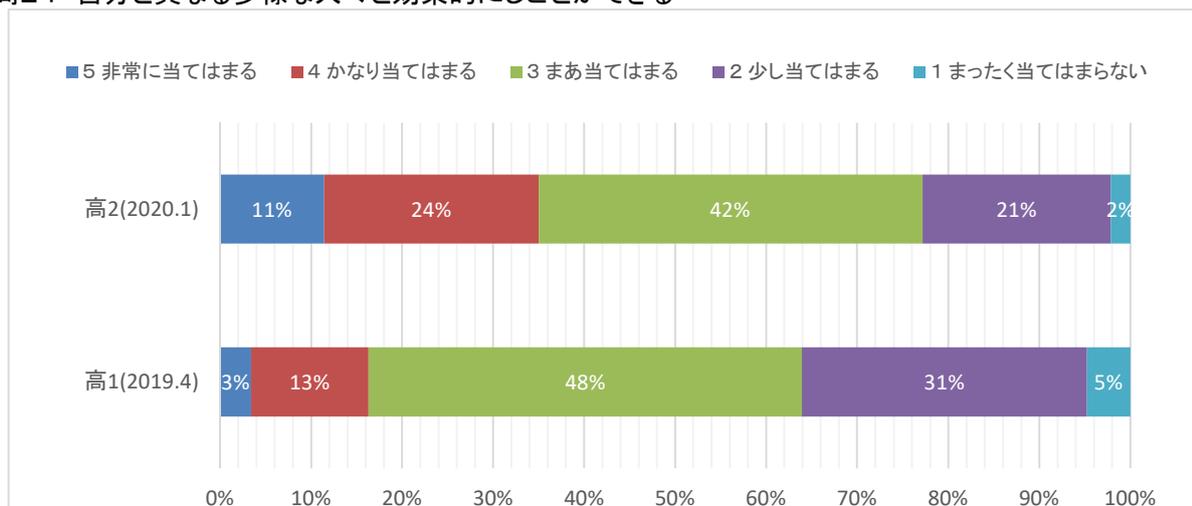
図表4 設問8 1つの視点ではなく、様々な視点から考えるのが好きである



3 協働して課題を解決する力

協働して課題を解決する力に関しては、本校質問項目21～24が該当する。概ね同じような伸び率を示している。高校1年次から2年次にかけて課題研究を継続して行い、班と協力して課題研究を進めていくことの必要性を再認識した結果だと思われる。その中でも比較的高い伸び率を確認することができたのが、設問24「自分と異なる多様な人々と効果的に仕事ができる」である。良い研究を進めていくにあたって、この力は大変重要である。異なる意見があるからこそ、物事を多面的にとらえて考察できる。その点が、この2年間で行ってきた課題研究の成果であると考えられる。

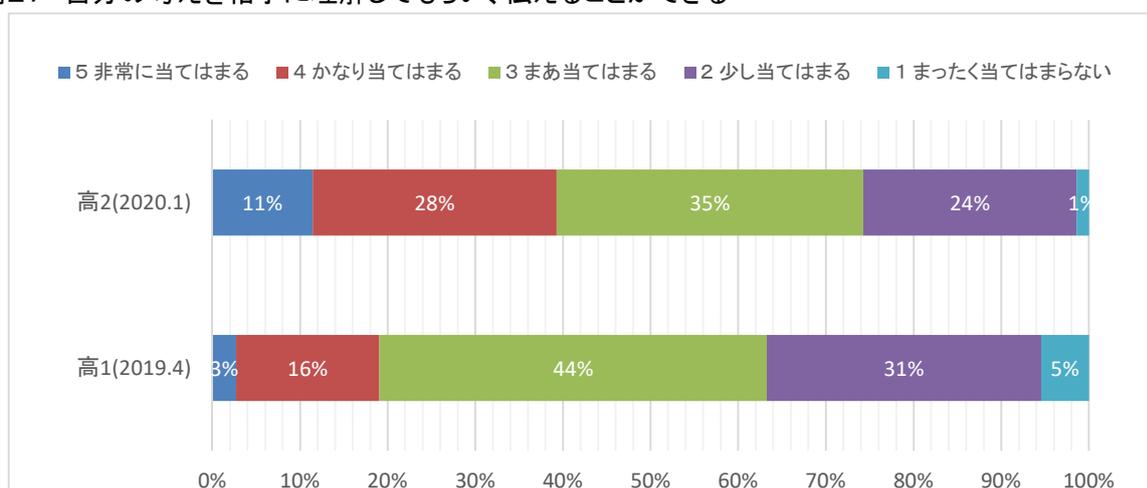
設問24 自分と異なる多様な人々と効果的にしごとができる



4 情報を発信する力

情報を発信する力に関しては、本校質問項目25～27が該当する。全体的に上昇しているが、特に設問27「自分の考えを相手に理解してもらい、伝えることができる」の伸び率が11%と大きかった。これは、1学年同様グループのメンバー間の意思疎通もあるが、中間発表や領域別発表会など自分の言いたいことを伝えなければならない機会が多いことが理由としてあげられる。また、外部と連絡を取って実際にフィールドワークへ行く等、積極的に自分から動いて情報を集めることを行った成果であると考えられる。今後社会へ出ていく若い世代にとって、大変必要なスキルをこのSGH事業で身に付けることができる。

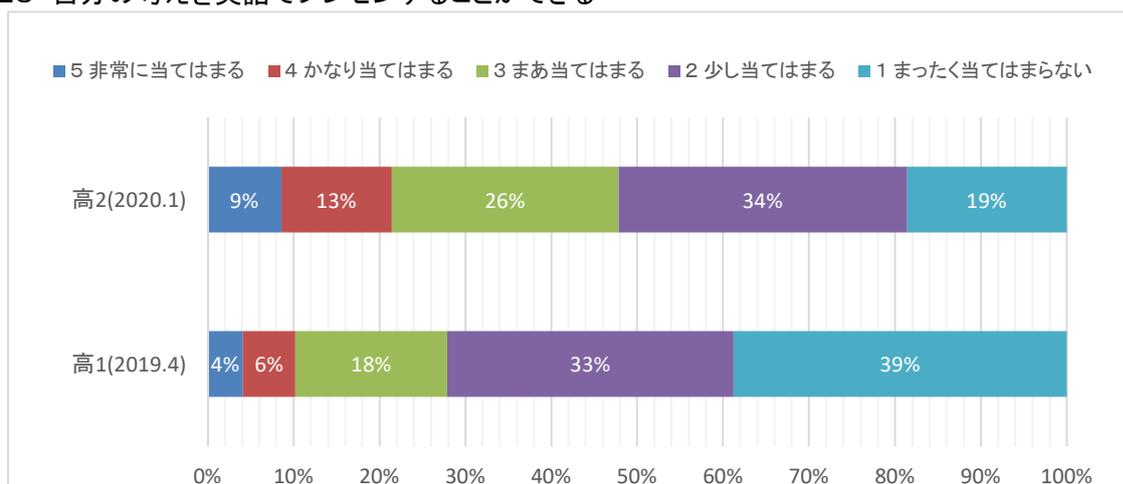
設問27 自分の考えを相手に理解してもらい、伝えることができる



5 英語で伝える力

英語で伝える力に関しては、本校質問項目28が該当する。例年この質問に対しての解答は伸び悩みを見せるなか、今年度の2学年においては20%の上昇と大変大きな伸び率を示した。今年度、新たに修学旅行において台湾の高雄女子高級中學において、全員が英語のプレゼンテーションを行うといった新たな取り組みを行った。その過程において、生徒たちは英語の教員とコンタクトをとる回数が増え、その結果自分で英語の能力が上がってきたと考えた生徒が増えたためと思われる。生徒にとって英語のプレゼンテーションは、かなりハードルの高いものであったと思われるが、それによって得た経験値は大変大きなものであったと考えられる。

設問28 自分の考えを英語でプレゼンすることができる



6 グローバル社会に貢献する高い志

グローバル社会に貢献する高い志に関しては、本校質問項目32、39が該当する。どちらも約20%という高い伸び率を示している。設問32「将来は地元地域や世界でグローバルに活躍したい」については、実際に修学旅行で台湾という外国に行ったことが大きいのではないかと感じる。先述した通り、今年度は高雄高級女子中学との交流を新たに行った。この時、英語での自主的交流が求められた。生徒によっては、初めての外国で世界共通語とも言える英語の重要性を認識した者も多かったのではないだろうか。設問39「社会に貢献するため、大学で取り組みたい分野や課題が決まっている」も18%上昇した。もちろん高校1年次から2年次の比較であるので、自然と進路が決まってきたという捉え方もできるが、この2年間に渡るSGH事業において生徒自身の考えに変化が出て具体的に進路を考えるようになったということも十分に考えられる。

設問32 将来は地元地域や世界でグローバルに活躍したい

